

シャンゼリゼ大通りのシンボル、エトワール凱旋門をまっすぐ抜けてずっと先まで行くと、パリの副都心であるラ・デファンス地区がある。グラン・アルシュ(新凱旋門)を中心に据え、現代的な建築物が建ち並ぶ、フランスの経済の中心になっている地区である。

フランス、パリと言えば、教会や美術館等、中世時代の建物が街並みを形成しているイメージが強かったが、(実際パリ中心部はそうであった。パリの少し郊外に出たところにこのような未来的な街、そしてパリらしくない街があるのかと少し驚いた。

見に行った日が土曜日だったせいか、スーツを着たサラリーマン等は見られず、代わりに多くの観光客や休日を楽しむ家族連れなどが見られた。ここは平日はパリを動かす仕事の街、休日はパリ市民の憩いの場となっているように感じた。

実際、グラン・アルシュ前の広場はとても開放的で気持ちが良い、日本の六本木や品川のようなビルが建ち並ぶ街の中にも、日本で感じるような窮屈さは受けず、仕事が無い日でもここに来たくなるような感じであった。

